EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER

02194149

PUBLICATION DATE

31-07-90

APPLICATION DATE

23-01-89

APPLICATION NUMBER

01011978

APPLICANT: NIPPON STEEL CORP;

INVENTOR: TAKAHASHI TOSHIHIKO;

INT.CL.

C22C 38/26 C22C 38/00 C22C 38/50

TITLE

STEEL FOR CARBURIZING-SHOT PEENING

ABSTRACT :

PURPOSE: To manufacture the steel having improved fatigue resistance by incorporating

specific ratios of C, Si, Mn, S, Cr, Nb, Al, N and P into Fe.

CONSTITUTION: A steel contg., by weight, 0.10 to 0.25% C, 0.50 to 3.0% Si, 1.00 to 3.0% Mn, 0.01 to 0.20% S, 0.50 to 1.50% Cr, 0.020 to 0.120% Nb, 0.02 to 0.10% Al, 0.010

to 0.025% N and ≤0.01% P, contg., at need, 0.005 to 0.10% Ti, furthermore contg. ≤4.0% Ni, ≤1.0% Mo, ≤0.1% V and ≤1.0% Cu and the balance Fe with inevitable impurities is prepd. In this way, the steel for carburizing-shot peening provided with

excellent fatigue resistance can be obtd.

COPYRIGHT: (C)1990,JPO&Japio



⑲ 日本国特許庁(JP)

⑩特許出願公開

⑫ 公 開 特 許 公 報 (A) 平2-194149

®Int. Cl. ⁵

識別記号 庁内整理番号

❸公開 平成2年(1990)7月31日

C 22 C 38/26 38/00 38/50

N 7047-4K

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全4頁)

❷発明の名称 浸炭ーショットピーニング用鋼

②特 頤 平1-11978

②出 願 平1(1989)1月23日

加発明者越智 達朗

神奈川県相模原市淵野辺 5 - 10-1 新日本製鐵株式会社

第二技術研究所内

⑩発明者 田中 洋一

神奈川県相模原市淵野辺5-10-1 新日本製鐵株式会社

第二技術研究所内

⑫発明者 髙橋 稔彦

神奈川県相模原市淵野辺5-10-1 新日本製鐵株式会社

第二技術研究所内

⑪出 願 人 新日本製鐵株式会社

東京都千代田区大手町2丁目6番3号

個代 理 人 弁理士 茶野木 立夫

明. 細 瞥

1. 発明の名称

浸炭・ショットピーニング用**期**

- 2. 特許請求の範囲
- 1. 重量比として

C : 0.10-0.25%.

SI: 0.50~3.0 %.

Mn:1.00~3.0 %.

S : 0.01~0.20%.

Cr: 0.50~1.50%. Nb: 0.020~0.120%.

A 2 : 0.02~0.10%.

N : 0.010 ~ 0.025 %.

P:0.01%以下、

残部Fc及び不可避的不軛物からなることを特徴 とする浸炭・ショットピーニング用鋼。

2. T!: 0.005 ~ 0.10%を含有することを特徴とする特許前水の範囲第1項記載の浸収・ショット ピーニング用鋼。 3. Ni:4.0%以下、

Mo:1.0%以下、

V :1.0%以下。

Cu:1.0%以下

の1種または2種以上を含有することを特徴と する特許請求の範囲第1項または第2項記載の提 戻・ショットピーニング用側。

3. 免明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は没炭・ショトピーニング用剤にかかわり、さらに詳しくは自動車、建設機械の歯車、各種シャフト類等の浸炭・ショトピーニング工程により製造される機械部品の材質特性、特に疲労強度の向上を可能とした浸炭・ショトピーニング用類に関するものである。

(従来の技術)

自動車、建設機械の歯車、各種シャフト類等の 機械部品のなかで、特に高級労強度を必要とする ものは、所要の製品形状に加工後、設関・ショト ピーニング処理が行なわれている。

特開平2-194149 (2)

浸炭・ショトピーニング処理は、例えば株式会社投資量発行「機械の研究第38巻第11号」1225~1346頁(昭和61年11月)に見られるように、浸炭処理後、ショト球を浸炭品の表面に投射し、浸炭品の表面似さの増加及び圧縮残留応力の増加を図り、被労強度の向上を図る手法である。

こうした決決・ショトピーニング処理を行なえば、疲労強度は決炭処理のみによる方法に比べて約50%程度向上することが示されている。

しかしながら、従来の肌焼き鋼はショトピーニング処理を前提として設計されていないため、 従来の肌焼き鋼を浸皮・ショトピーニング処理 (アークハイト: 0.60 A) して得られる疲労強度 は、平滑試験庁を用いて小野式回転曲げ扱れ試験 によって評価した疲労限で、120kg f / 晶が上限 であり、肌焼き品の疲労強度の保証には、未だ充 分であるとは言えないのが現状である。

(発明が解決しようとする課題)

本免明の目的は、設炭・ショトピーニング処理 (アークハイト: 0.60A) によって、平滑試験片

新規な知見を得て、本発明をなしたものである。

すなわち、本発明は以上の知見にもとづいてなされたものであって、その要旨とするところは、 重量比としてC:0.10~0.25%、SI:0.50~3.0%、Mn:1.00~3.0%、Cr:0.50~1.50 %、S:0.01~0.20%、Ag:0.02~0.10%、 Nb:0.020~0.120%、N:0.010~0.025%、 を含行し、または、さらにMo:1.0%以下、 N1:4.0%以下、Cu:1.0%以下、V:1.0 %以下、のうち1種または2種以上を含有し、P:0.01%以下に制限し、妖部Fe及び不可避的不純物からなることを特徴とする設設・ショトピーニング用側にある。

以下に本発明を詳細に説明する。

まず、Cは肌焼き品の芯部の強度を増加させるのに有効な元素であるが、0.10%未満では強度が不足し、また0.25%を超えると制性の劣化を招くとともに、肌焼き品の疲労強度に有用な圧縮残留応力が生じにくくなるため、含有量を0.10~0.25

を用いて小野式回転曲げ変れ試験によって評価した疲労限で、従来の上限値よりもさらに20kg (/ は以上大きい140 kg f / は以上の優れた疲労強度を付与することを可能にした鋼材を提供しようとするものである。

(課題を解決するための手段・作用)

%に定めた。

次にSIは、浸炭処理後に存在する残留オーステナイトの安定化を図るために添加するが、その効果は0.50%未満では不十分であり、一方3.0%を超えるとその効果は飽和し、かえって疲労強度の劣化を招くので含有量を 0.5~3.0%に定めた。

また、Mn. Cr は浸炭処理後の銭留オーステナイト量の増加、及び焼入れ性の向上に有効な元素であるが、Mn:1.0 %未満、Cr:0.5 %未満ではその効果は不十分であり、一方Mn:3.0 %及びCr:1.5 %を超えるとその効果は飽和し、これらの元素の多量添加は経済性の点で好ましくないので、これらの含有量をMn:1.0 ~3.0 %、Cr:0.50~1.50%とした。

次にSは被削性の向上に有効な元素であるが、その効果は0.01%未満では不十分であり、一方0.20%を超えると硫化物系介在物を生成しかえって被労強度を劣化させるので、含有量を0.01~0.20%とした。

A D , Nb , Nは別中で化合物 A D N , Nb

特開平2-194149 (3)

0.005 %未満ではその効果は不十分であり、一方

0.10%を超えるとその効果は飽和し、むしろ絞

労強度を劣化させるので、その含有量を0.005~

また本発明対象鋼では、必要に応じて、Mo: 1.0 %以下、N1:4.0 %以下、Cu:1.0 %以下、

V: 1.0 %以下の1種または2種以上を含有させ

ることが出来る。これらの元素はいずれも浸炭処 理後の残留オーステナイト量の増加及び焼入れ性

の向上に有効であるが、多量添加は経済性の点で

好ましくないために、上記の如く上限値を規定し

(CN) を形成し、オーステナイト結晶粒を微細 化する働きがあり、AL、Nb、Nのいずれか 一つでもAI: 0.02%、Nb: 0.020 %、N: 0.010 %の下限値より少ないとこの効果が不足す

一方A里: 0.10%、Nb: 0.120%、N: 0.025 %を超えるとその効果は飽和し、むしろ疲労強 度を劣化させるので、これらの含有量をA』; 0.02-0.10%, Nb : 0.020 -0.120 %, N: 0.010 ~0.025 %とした。

一方、Pは鋼中で粒界偏折を起こし、粒界強度 の低下を介して疲労強度劣化の原因となる。特に Pが0.01vt%を超えると疲労強度劣化が顕著とな るため、0.01%を上限とした。

以上が、基本成分系であるが、本発明において はこの他さらにオーステナイト結晶粒の微糊化を 図ることを目的で、Tiを含有させることが出来 る。

TIは御中で化合物 Ti(CN) を形成し、オー ステナイト結晶粒を微細化する働きがあるが、

t: -

(尖 施 例)

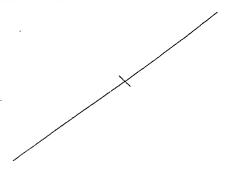
0.10%とした。

第1表の組成を有する解材を、平行部が直径8 ■■の平滑試験片を用意し、 930℃×240 分→830 で×30分→ 130で油冷→ 160℃×60分焼戻しの 条件で設炭処理を行なった後、アークハイト: O.GDAの条件でショトピーニング処理を行ない、 小野式回転曲げ疲れ試験により疲労特性の評価を 行はった。

この結果を第1.表にあわせて示す。

本発明の鋼は、140kg [/ 晶以上の優れた疲労 限を行することがわかる。

一方、比較例13, 15, 16, 18, 19および20は、 Si, Mn, Cr, Al, Nb 或はNの含有量が それぞれ本発明の要件とする範囲を下回った場合 であり、比較例14、17、21、22、23、24および25 はSi. S. A.J. Nb. N. P或はTiの含有 量がそれぞれ本発明の要件とする範囲を上回った 場合であり、何れの場合も140kg(/岫朱満の蛟 労服しか得られなかった。



第 1 表

(vt %) 疲劳限 (kg f /ml) v Cu AQ Nb N TI Mo NI Mn Cr S c SI
 ①
 0.19
 0.92
 1.91
 0.93
 0.03
 0.037
 0.041
 0.014
 0.008

 ②
 0.23
 2.64
 2.81
 0.54
 0.02
 0.061
 0.033
 0.020
 0.005
158 1.25 0.13 0.024 0.072 0.018 0.007 152 _ (3) 0.13 Q.75 1.46 148 --1.67 0.65 0.07 0.081 0.031 0.021 0.008 ① 0.17 1.23 151 0.009 0.084 0.042 0.018 D.007 1.23 0.05 (5) 0.15 1.78 1.81 161 0.67 0.059 0.037 0.013 0.006 0.82 0.16 (b) 0.22 1.51 1.21 __ 153 D.23 2.51 1.01 0.04 0.034 0.074 0.014 0.008 ⑦ 0.23 0.93 1.45 149 0.4 0.012 0.005 0.96 0.05 0.063 0.051 (8) D.16 1.63 2.61 0.14 157 0.85 0.02 0.051 0.043 0.019 0.007 0.52 (D) 0.18 1.94 1.99 0.85 0.02 0.051 0.043 (D) 0.23 2.40 1.43 1.23 0.17 0.027 0.084 143 1.94 0.20 0.021 145 0.31 1.11 0.12 0.043 0.072 0.018 0.004 0.025 1.68 (D) 0.21 0.93 151 0.3 0.005 0.014 1.52 2.18 1.31 0.09 0.035 0.045 0.022 D 0.24 1.25 130 0.74 0.04 0.025 0.088 0.018 0.009 15 0.23 0.27 1.48 127 0.007 14 0.17 3.47 2.13 0.68 0.05 0.037 0.064 0.022 135 _ 0.02 0.045 0.063 0.015 0.005 -15 0.22 0.92 0.75 1.13 136 16 0.17 1.34 1.68 0.20 0.07 0.037 0.052 0.014 D.002 122 _ 0.068 0.031 0.023 0.004 1.28 0.28 17 0.13 1.51 1.45 _ 1.99 0.67 0.04 0.015 0.025 0.018 0.006 18 0.19 0.94 137 0.07 | 0.075 | 0.014 | 0.017 | 0.008 2.65 0.63 2.04 19 0.15 131 0.005 0.17 0.084 0.031 0.006 1.32 1.21 20 0.22 1.25 134 0.127 | 0.045 | 0.013 | 0.003 0.11 21 0.18 1.28 1.91 1.05 2.0 _ 129 0.18 1.47 1.24 0.03 0.035 0.142 0.017 0.006 22 0.18 1.78 128 131 132

〇 印:本 発 明 解

(発明の効果)

以上述べた如く、本発明の爾を用いれば、肌焼き品の折損に対して、その要求特性を十分満足できる優れた疲労強度を付与することが可能となり、 産業上の効果は極めて顕著なるものがある。

代 理 人 弁理士 茶野木 立 夫